

Q. 4 教材研究をする上で、気を付けることがありますか。

A. 教材研究をする際に留意することは、「何のために教えるのか？」という教材の『目的』を明確に把握することからスタートしましょう。そして、そのためには「何を教えなければならないか」という内容を把握していくことが必要になります。このことを曖昧にしていくと、学習のねらいが広がってしまい、子どもたちは何を学んでいるのかがわからなくなってしまいます。

『素材研究』『教材研究』『指導法研究』の3つがポイントとして挙げられます。

○まず『素材研究』をしよう！

『素材』とは『教材』以前の材料のことを指しています。子どもに教える目的を達成するためには、教師が素材と向き合い、その本質を理解し研究していくことが不可欠です。国語科でいえば、主人公は誰か？山場はどこか？この作品の魅力は何か？主題は何か？などについて『自分の言葉』で明解に書き出してみるとよいでしょう。こうした取組が素材を教材化していく力を養うことにつながります。

指導書や単行本の解に頼って『教え方』に心を向けるばかりでなく、自分の解をもつことにも心がけ、素材そのものから『学び、理解する』ことで教える方法を見出すようにしましょう。

○次に『教材研究』をしよう！

素材そのものの本質が理解できると「どんな力を付けさせるのか？」が見えてきます。『教材研究』とは、教える側が「教える材料としての研究を行う」という意味であり、その中核となるのが「この1時間で何を教えるのか」を具体的につかむことでもあります。そのためには、子どもの発達の段階に合わせて、『この学年で指導すべき内容』が示されている学習指導要領の指導事項との関連を押さえておくことが大切です。

学習指導要領の方針にしたがって編集されている教材集が教科書であり、その教科書の魅力を最大限に発揮するのが教師の指導力となります。「教科書教材をどのように扱えば、最も効率的に子どもの学力を育てることにつながるのか？」という観点から教材を研究していきましょう。

まずは、教科書に準拠した指導書等を参考にしながら実践していき、徐々に児童生徒の実態に応じて、自分で工夫しながら少しずつ授業を組み立てていけるように努力していきましょう。【Q. 15 参照】

○最後に『指導法研究』をしよう！

「何のために」「何を教えるのか」という事柄が理解できると、それを「どのように教えていくのか」について考えていくことになります。

とにかく、この『指導法研究』に大きな力を注ぎがちになりますが、子どもと直接かかわらない部分にどれだけ力を蓄えているかということが、授業の軽重や深淺を位置付けるといっても過言ではありません。『素材研究』

『教材研究』をしっかりと行った上で、発問や指示、板書、演示、説明などの内容や指導法を十分に吟味するようにしましょう。

